

地域を知り不測の事態に対応

自衛隊小隊対抗駅伝

11月11日、陸上自衛隊国分駐屯地第十二普通科連隊第二中隊による小隊対抗の駅伝大会がおこなわれました。

この駅伝大会は、隊員の体力向上と警備隊区内（本町を含む）で非常事態が起こった際の初動対処に役立てるため並びに地域住民との交流を図るために開催されたもので、小隊5チームの選抜隊員50名が、本町を起点終点に鶴田町、大口市など50キロ10区間を走りました。

自衛隊国分駐屯地の武藤伸治三等陸佐は「イラク派遣や新潟中越地震で自衛隊に対する国民の期待が集まっています。災害等不測の事態に備えて、日頃からこの地域について知っておくことは大変意義あることだと認識しています。」と話されました。

▶ 広橋の第1中継点での模様



来年の梅のために！

梅の剪定講習会開催

11月5日、梅の剪定講習会が開催されました。この講習会は、今回が13回目の開催。今年は2年ぶりに来町された和歌山県の梅栽培農家小山利昭さんが、指導にあたりました。

剪定講習会は、午前と午後2会場に分かれておこなわれ、求名校区山下純一郎さん所有の梅園では、約40名が参加。小山さんは「梅を植えてから年数が経ち、今後はふところが大切です。結果枝群（実のなる枝）が大事になりますので、注意して剪定してください。」などと話され、剪定の実技指導をおこないました。会場からは「結果枝群の効果的な育成方法は？剪定では、どのくらいの長さで枝を残したらよいか？」など質問もあがっていました。

小山さんは「地域に指導者も育っており、自分が教えることはあまりなくなりました。良い梅です。」と本町の梅を評されました。

◀ 小山さん（中央）の熱心な指導



びっぴり箱



〔作文〕

修学旅行の思い出

薩摩中二年 米重 英成 君

一日目、最初の目的地は吉野ヶ里歴史公園でした。そこでは弥生時代のことを学びました。土器や槍などの展示物がとても多く、すごく昔の物感なのでこんなに見つかったんだろうか、こんなものからどうして当時の事がわかるんだらうかとか、色々これから調べたいことが出てきました。その後玉作りをして、曲線に削ることがとても大変だったことをよく覚えています。完成品は、形も微妙に違い、さらに石の模様がそれぞれに浮き出てきていい記念品になりました。夜のホテルでは、語りべの羽田礼子さんから、原爆が落とされた当時のことやその後の被害について学びました。話を聞くうちに僕は絶対にこういうことが繰り返されてはいけないと改めて強く感じました。また、今まで知らなかったことがたくさん

あって、自分たちが事実を知らないことについても驚きました。

二日目は、台風で自主研修が中止になってしまいました。とても残念でしたが、みんなと一緒に色々な場所を見て回りました。まずは原爆資料館です。当時の物や写真から悲惨な状況が分かりました。長崎に投下された原爆のファットマンの実物大の模型を見て、その大きさに驚き、さらに現在世界中にある核兵器の数を数えて、その多さにまた驚きました。平和について改めて考えさせられる事ばかりでした。その後、オランダ物産館でお土産を買い、太宰府天満宮では先輩方の合格を祈願しました。夜はホテルでトランプやウノをしてみんなで遊びました。夜友達大勢と過ごす機会はめったにないので、思いっきり楽しみました。日ごろ余り話せないことも色々話せて部屋の中で盛り上がりました。

三日目、待ちに待ったスベイスワールド。友達と一緒にタイタンやビーナスに乗って叫んだことが忘れられませ